

香港インターナショナルジュエリーショーが9月19日から開催された。年に数回催されるジュエリーショーの中でも、クリスマス商戦を直前に控えた9月は、各国からバイヤー、生産者が一堂に会する華やかなショーと言える。CIBJO(シブジョ)、国際宝飾貴金属連盟の委員会が開催されることもあり、マーケットの動向調査とともに、真珠養殖に欠かせない真珠核について各国の生産者の見解を調査するため、香港に赴いたのである。

真珠や真珠核をめぐっては、シブジョでも喧々諤々の議論がなされている。真珠核は、業界関係者以外では耳馴染みのない言葉であるが、その真円率は真珠そのものの真円率を左右するが故に非常に重要な要素といえるのである。これ迄も、シヤコ貝核、蛍光増白核、プラスチック核等といったスタンダード外の真珠核が使用されるなど、真珠核をめぐってはトラブルが絶えなかった。今回の香港では、ロバートワン氏(ロバートワンタヒチ)やバスパレー氏(バスパレーパール)赤松蔚氏(シブジョ真珠委員会副委員長)等と、長時間にわたって、そのような真珠核をめぐる諸問題と真珠の未来に向かって話し合うことができた。



CIBJO真珠委員会副委員長赤松蔚氏(左)と語る弊社社長。パリ真珠裁判に遡って「真珠とは」を考える時が来た



タヒチ最大の養殖場のオーナーロバートワン氏(右)。今年の浜揚げ珠のオークション中のシーン



ロバートワンのガンビエ養殖場から浜揚げされたピーコックの最高品質素敵な商品になりそうな予感

NEWS

ガンビエ諸島の中のリキテア島は、タヒチの中でも美しい真珠を産出します。タヒチから直送される真珠は、11月以降、店頭と並ぶ予定です。タヒチが誇るトップクラスの真珠の魅力をお楽しみ下さい。



BES NETWORK INC

世界各国の真珠匠が追い求める美の世界
世界中の生産者が協力を

Hong Kong International Jewellery Show
2011.09.19-

欧米を超える勢いでバイキングするアジアの宝石商。特に、黒蝶真珠と白蝶真珠の金色が人気のように、中国を筆頭とするアジアマーケットの勢いを肌で感じる香港での日々であった。

他方、養殖場をめぐる自然環境の悪化の影響からか、高品質の真珠の浜揚げ量が極めて少なくなっている印象をうける。自然の恵みの宝石である真珠、

「美しい真珠は美しい海からしかうまれない」改めてこの言葉の意味を考えなければいけない時が来ているのであろう。

何故、神秘の宝石と呼ばれるのか

タヒチの黒蝶真珠は、貝が3歳の時にはじめて、挿核手術がなされる。その後約2年の歳月をかけて1粒の真珠が採集される。同じ貝に再び、挿核を行い、2年養殖、そして、浜揚げ後3回目の挿核。黒蝶貝はその9年の命の中で、たった3個の真珠しか作り出すことが出来ないものである。まさに神秘の宝石。9年で3個。自然が時間をかけて育む宝石だからこそ、真珠は



神秘の宝石とよばれるのであろう。

「神秘を育む」

ロマンティックな話ではないか。残念ながら、浜揚げ真珠のすべてが宝石の範疇として生まれてくるわけではない。むしろそのほとんどが廃棄されてしまう。だからこそ、真珠匠は、雨の日も、猛暑の日も、貝の世話に余念がない。1年間365日のうち、300日以上を海の上で過ごす真珠匠たち。

美しい真珠をお客様の元に届けたい

その美しい心が美しい真珠を生み出していく源なのかもしれない。日本の養殖場もタヒチの養殖場もオーストラリアの養殖場もその美しい真珠の為に、共創していくことが必要なのであろう。

写真右)

南洋真珠の最大の養殖場グループ、バスパレー社長と赤松氏、弊社社長。美しい真珠を求める心に国境はないことを痛感した香港である。